専光寺付近遺跡　第５回ミニ展示

2022 年６月１５日

はじめに

専光寺付近遺跡は、本町の南部、利根川を眼下に望む大泉台地の南端、仙石地区に位置します。土地区画整理事業に伴い、昭和 62 年８月から平成３年３月まで発掘調査が実施されました。現在、遺構や出土品の整理作業中ですが、今回は「**古墳群**」に焦点をあて、古墳から出土している埴輪類を中心に紹介します。

大泉町の古墳

昭和 13 年に刊行された『上毛古墳綜覧』によれば 37 基の古墳が確認されています。その後、平成 29 年に刊行された『群馬県古墳総覧』では、発掘調査された古墳を含めて 159 基が記載されています。このうち、仙石地区では 37 基の古墳が確認されています。

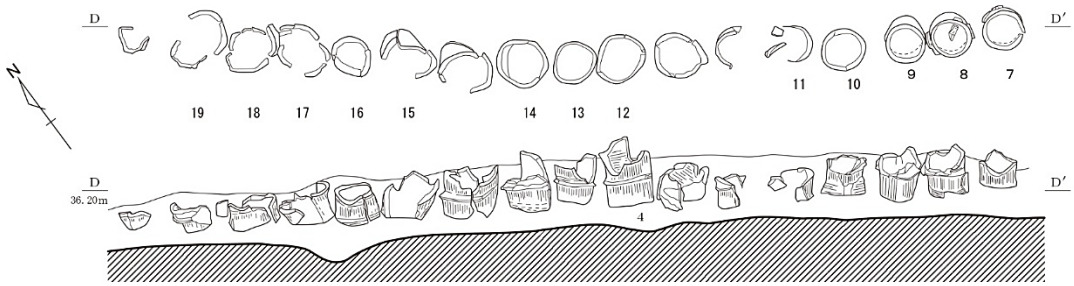
専光寺附近遺跡の古墳

調査古墳の成果

土地区画整理事業に伴い 23 基の古墳が調査されています。古墳の中心は５世紀中～後半に築造されたもので、埋葬施設は竪穴式石室となります。その後、６世紀初頭まで古墳が継続して築造されます。中でも 14 号墳(諏訪山古墳)は、径 46m 以上の円墳で、この時期の円墳としては県内最大級となります。また、古墳の中では唯一、埴輪列が確認されています。埴輪列は墳丘の南側に、長さ 8.5mにわたり 23 個体の円筒埴輪が並んでいました。

それから約 100 年経た７世紀前半に、再度古墳が築造されます。この時代の古墳は、６世紀中頃に榛名山二ッ岳の爆発により噴出した軽石（角閃石安山岩）を使用した横穴式石室（１～３・17・22 号墳）となっています。

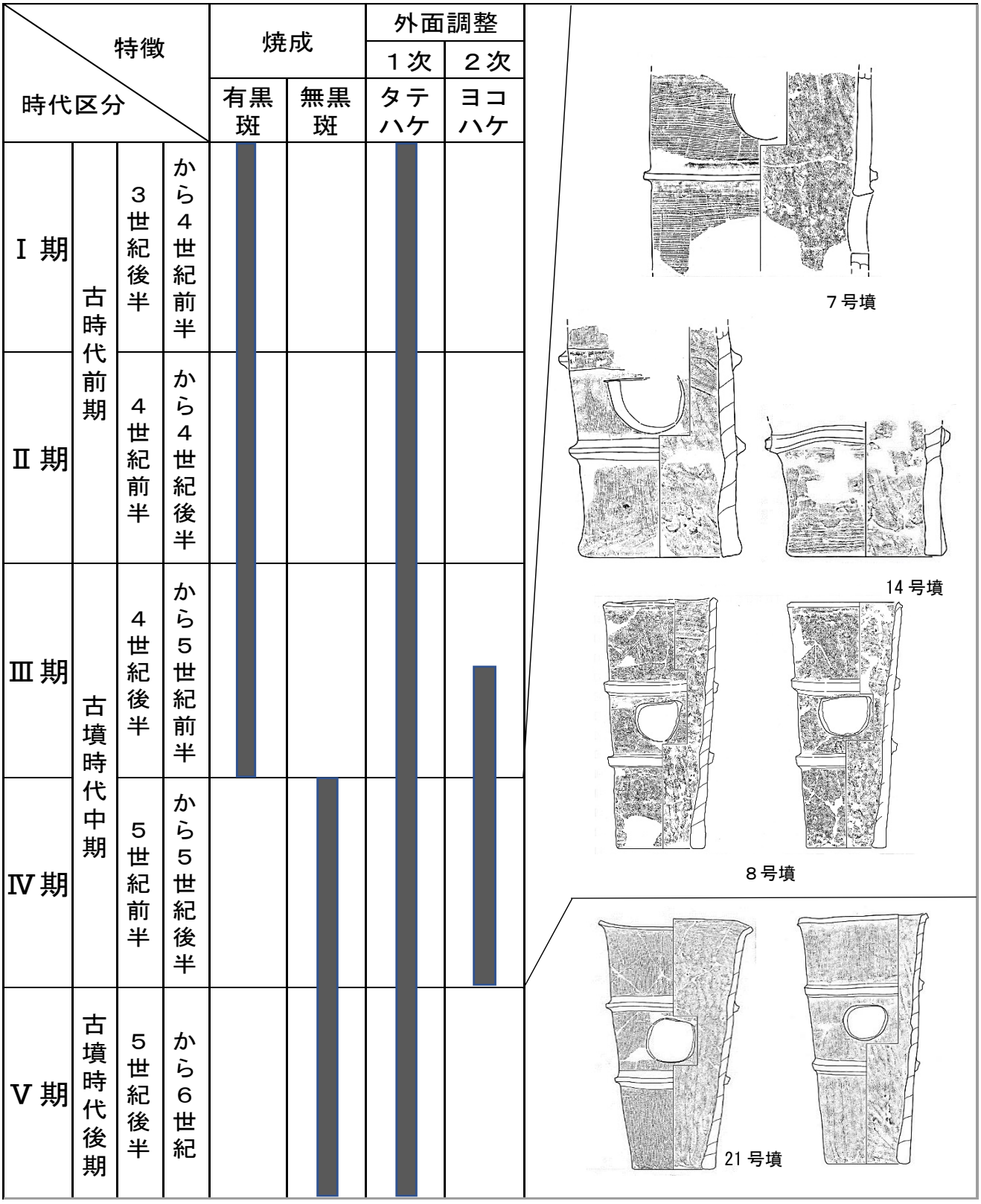
角閃石安山岩の転石は、渋川市からはじまり旧利根川流域の下流域まで分布しています。石材が軟らかく加工しや



14 号墳の埴輪列

すいため、石室の石材や浮石等に利用されています。

角閃石安山岩の石室で最も著名なのは高崎市綿貫観音山古墳となります。最南端は埼玉県春日部市の内牧塚内古墳群になります。

円筒埴輪は時代の物差し

円筒埴輪は、古墳に樹立した埴輪のひとつで、土管状の筒形をしたもので、埴輪の中では一番古くから登場し、人物や馬等の形象埴輪と区別されています。円筒埴輪は器面に残されたハケメや製作技法等から、古墳が造られた年代を計る物差しに使われています。